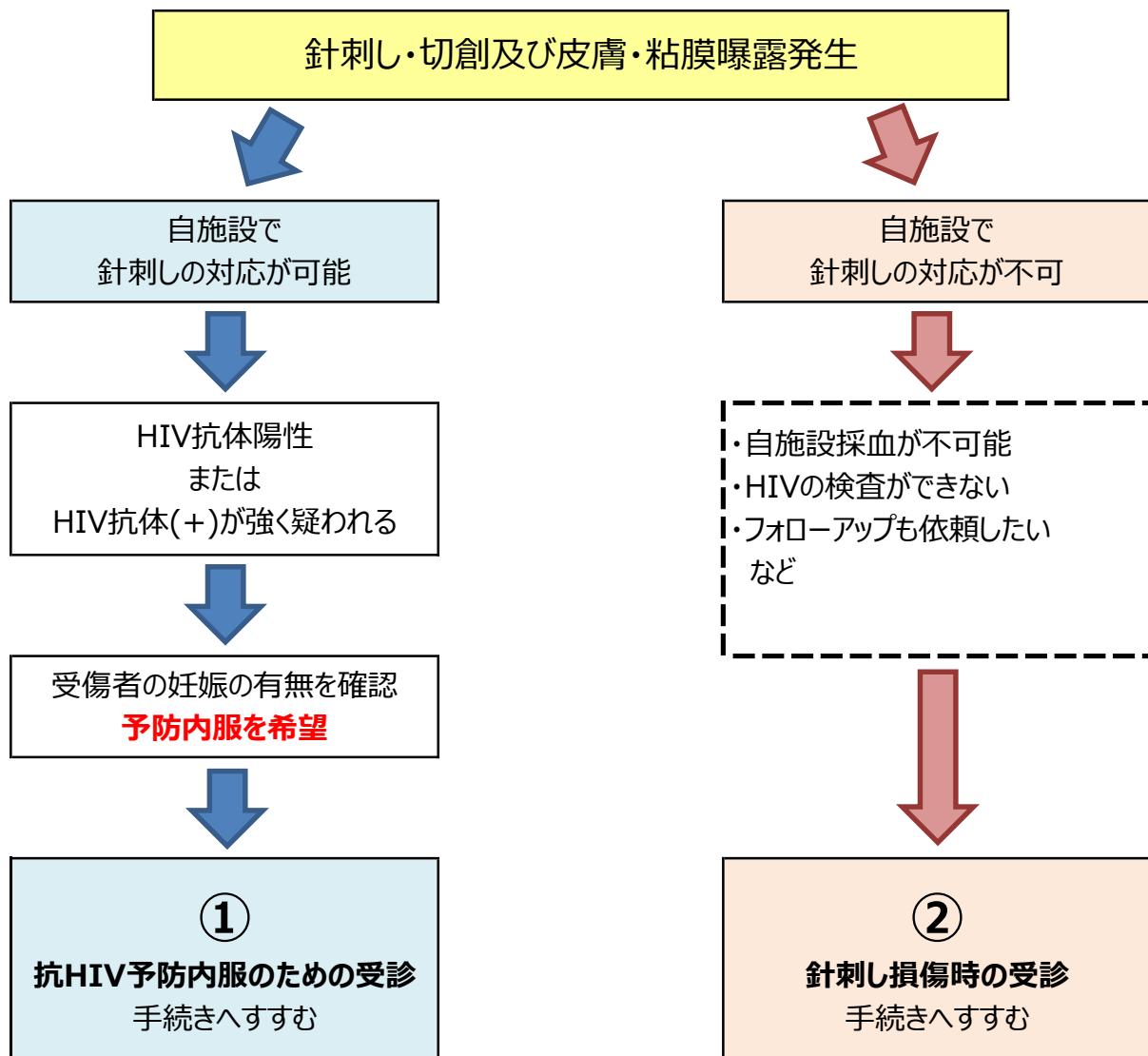


針刺し損傷時の受診方法について

針刺し損傷時の受診は、2つの方法があります。

①か②かを判断し、受診方法をご確認ください



●参考資料

経皮的なHIV曝露後予防についての推奨

曝露のタイプ	曝露源患者の感染状況			
	HIV陽性	HIV感染状況不明	曝露源患者不明	HIV陰性
針刺し・切創	予防内服を推奨	予防内服なし（※注）	予防内服なし（※注）	予防内服なし
粘膜・傷のある皮膚	予防内服を推奨	予防内服なし（※注）	予防内服なし（※注）	予防内服なし
正常皮膚	予防内服なし	予防内服なし	予防内服なし	予防内服なし

(※注) 曝露源患者のHIV感染状況が不明の場合や、曝露源患者が不明の場合であっても、HIV陽性患者由来の可能性が高いと考えられる場合には抗HIV予防内服を考慮する。

「予防内服考慮」という指示は予防内服が任意で有り、受傷者と担当医師の間においてなされた自己決定に基づくものであることを示す。もし、予防内服が行われ、その後に曝露源患者がHIV陰性とわかった場合には予防内服は中断されるべきである。